

# 人生の 仕舞い方



よりこ  
武藤頼胡の

先日、大切な友人が亡くなりました。48歳です。「退院するよ」と3月に電話をもらったのですが、体調が悪いと聞いたので、偶然ですが亡くなる前日、お見舞いに行きました。既に意識は混濁していた私に来たのが分かったのか不明ですが、名前を呼ぶと声と手で反応してくれました。まだ20歳にならないお嬢さまや奥さまのことを「よろしく

## 父親の愛情

### 残される家族のため

ね」と言われた気がしました。

亡くなった翌日、ご家族と一緒に納棺やお葬式の打ち合わせ、自宅での写真データ探しなどをしました。葬儀社との打ち合わせの際にお兄さまがいらっしゃって、お墓の希望や、どちらのお寺さんで葬儀をするのかなど「本人の希



望を3月には聞いていたの  
で」と、詳細に話をしていた  
した。

病気の最中に困るであろう  
ことはしっかり身内に話して  
いて、生命保険のことなど、  
すぐに使うものの情報があり  
ました。そして自宅でも「彼  
の生前の思い」を感じまし  
た。家族が困らないように、  
全てのパスワードは分かりや  
すいデータになっていたし、  
大本のパソコンのパスワード  
も少し考えると分かるよう  
なっていました。

大事なものが入っている引  
き出しから、子どもたちの小  
さい頃の思い出の品や昔の写

真の束がたくさん出てきまし  
た。「いつもパパがお帰りと言  
ってくれたんだよ」など、  
2人のお嬢さんたちからは  
「パパ」の話を一日中たくさ  
ん聞きました。

若過ぎる死は残念でなりま  
せんが、彼が生前にしっかりと  
自分の終活をしていたこと  
を感じ、やっぱり大切なこと  
だと彼から教えてもらいまし  
た。「今」だからできること  
はたくさんあります。皆さん  
もぜひ、終活をして後悔のな  
い人生にしてください。

(終活カウンセラー協会代表  
理事)

(次回は6月12日付)